

1

ゆうかりんと歩きたい

ゆうかりんと手を繋いで歩きたい

「あら、たんぼぼ」なんて言っていてゆうかりんが立ち止まる。今日も天気がよかったからゆうかりんと二人でお散歩してるんだ。手と手をぎゅつと絡ませてお互いに歩幅を合わせて歩くんだよ。

もうすっかり厚い上着は必要の無い気温になってきたから密着してると少し暑いくらい。でもこれが俺とゆうかりんの適温なんだなあって思わされるんだ。ゆうかりんはホットなくらいが丁度いい。

迷子の子犬にちよつかいをかけるように、しゃがみこんでたんぼぼに語りかけるゆうかりん。釣られて俺も隣にしゃがみ込むよ。

俺を横目で見て「この子なんだかすごく寂しそうな顔してるの」って言うんだ。なんだか浮かない感じは俺にもちよつとだけわかる気がするよ。

だからと言って何が出来るわけでも無くて、俺はただ「五月病だよ」って言うだけだった。「臍月はまだ先よ」なんて突っ込まれたりしてね。

たんぼぼを見ていると遠い昔にやった「ガンガン流れてくるパツクの刺身の上にたんぼぼを乗せてフタを閉める仕事」という拷問を思い出すね。

ゆうかりんにその話をしたらすごく珍しがられたよ。目を丸くして「たんぼぼ食べるんだー!」って言われただけど食べやしないよウフフフフ。

外の世界は思ったより草食系だとかなんとか言われてね。またゆうかりんに変な知識を植えてしまつてほんのちよつとだけ反省だよ。

ゆうかりんは愁いを帯びたたんぼぼを一通り一方的に励ました後立ち上がるよ。俺も立ち上がって、また手を絡ませて歩き始める。

こうやって春の花に触れながらのんびりと歩くのはなかなか心が癒されるよ。ストレスでガツチガチになつた俺の身体も程よくドロリツチさ。

でも俺ストレスなんて感じたことないもんねー。ゆうかりんの顔を見るとそんなのどうでもよくなるもんねー。こりやあゆうかりん健康法という奴だね。ぼくぼくと歩きながら、ゆうかりんが「外の子供は綿毛をフーってする?」って聞いてくる。たんぼぼ

の綿毛を吹くのは子供にとつては一種の宗教だと思
うよ、すごく悪い宗教さ。

我先にといった感じで綿毛を見つけては思いつき
吹いて飛ばすんだ。他の子に吹かれていたり、強い
風に飛ばされていたりすると

なんとなく敗北感を植え付けられた気になるんだよ
ね。田舎の純粋な子供のささやかな楽しみだったわ
けさ。少なくとも俺はよくやったよ

風に乗って散らばっていく感じが好きだったと答え
るとゆうかりんは「ふーん」なんてわかつたような
わからないような返事を返してくるの

そのまま何も言わず歩くんだ。ぼくぼく、ぼくぼく
つてね。ふと思いついて、ゆうかりんのうなじの辺
りにそつと顔を近づけてやって

優しくふーって吹いてやったんだ。ゆうかりんの髪
がちよつとだけふわつとなるの。ピクツて水をかけ
られた猫みたいになつちやうゆうかりん

「ちよ、な、何！」って言いながら俺の手を遠慮無
しに手のひらで押しつける。それでも俺は口をすぼ
めてゆうかりんをふーふーするの

俺は別に可愛くないけどこれは可愛い悪さをさけて
奴さ。「いい加減にしなさい」なんて言つて口をむ
ぎゆつてやられるまで続けたよ

「ゆうかりんは飛ばないね」なんて言つてやると「当
たり前でしょ、もう」なんて言われる。目を細めた
彼女のため息が宙に漏れるよ

こんな下らないやりとりをしつつ歩くの。こつやつ
て俺とゆうかりんで散歩を味わっているんだ。その
すぐ後、ゆうかりんも何か思いついたみたいで

さっきの俺みたいに口をすぼめてそつと俺の横か
ら顔を寄せてくるんだよ。だけどなんとなく俺気配
でわかちやつたからね、不意打ちするつもりで勢
い良く振り返つて、そして勢い良く俺の口でゆうか
りんの口を塞いでやつた。軽く音をさせて唇を離す
とゆうかりんの顔は真つ赤でね

一通りフリーズした後「は、反則！ 反則！」なん
て言つて腕をぶんぶんするの。反則を犯したい気分
だったんだ！ いいでしょ！

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふふふふ

2

ゆうかりんを守りたい

自分の意思で、というよりはゆうかりんに盾にされたい

ゆうかりんに道具として使われるっていうのはなんというか甘露な響きご褒美だと思うのです

最近では来なくなっただけど、時々妖怪討伐屋とか名乗るオモシロい人が遊びに来るんだよ 俺とゆうかりんの愛のハウスにね

わかりやすく言うとお海賊漫画の賞金稼ぎみたいな人でね、迷惑な妖怪とかを懲らしめて里人さんにお金を貰ったりするの

でもほら最近はどうかりんあんまり悪い事してないから人里からもあまり警戒されてなくてね、ゆうかりんにお金をかけてたりしないんだけど

そういうのを知らない遠方からのお客様が昔のゆうかりんの評判だけで勝手な期待を抱いて今日みたいに来たりするんだよ

なんか古風な喋り方で家の前で騒いでね、まあ「風見幽香出て来いでないと目玉をほじくるぞ」的なこ

とを言うのよ 目玉は勘弁して欲しいね

武器の類をしつかり構えてね 何がアカンかって言うのと、しつかり大声で言うモンだからゆうかりんがお昼寝してたりすると大変だということ

ご機嫌の悪さがマキシマムになる前に大抵慌てて俺が出て行って必死に説得するんだけどさ

こういう人つてのは何故なんだか大抵俺の話を聞いてくれないものでね、挙句の果てに俺を殺そうとしたりするから大変だよ

最初は必死に下手に出て「お願いだから帰ってね」みたいな事言うのよ、この第一段階は大抵すぐに突破される

次に「フハハ風見幽香に会いたかったらこの俺を倒してからにするんだな！」つてのが方法としてあるんだけど、これやると本当に命の危険に繋がったりするのであんまりやりたくないの 最終的に「本当にゆうかりん呼ぶけどいいの？」つて

ちゃんと相手の人に確認してゆうかりんを呼び出すよ これまた大抵俺が「なんで押し返さなかったの」つて怒られるんだけど

そんな事言われても本当に困るんだよゆうかりんの
難題はまさしく難題、絶対クリアできないよ、
ゆうかりんを前にお通しするんだよ

めんどくさそうにしながら「三十秒くらいは相手し
てあげるから、後は一人で帰りなさいね?」なんて
言いながら

適当な構えなんかとつちやつて あー俺隠れるべき
かな、とか思うんだけどさ、何故だか俺の腕がガツ
チリとゆうかりんの腕と仲良くしちやつててね、お
散歩に行く時みたいな組み方まわてるから離れられ
なくて

で、そのお相手さんがやたらギラギラした剣なんか
振つちやつたりするの、そういう時、ゆうかりんが
剣の動きに俺を合わせるように動いてね

本人は風に揺れるように動きながら「当たったら死
ぬわよー」なんてやるの、そこだけめつちや楽しそ
うにクスクス笑いながらね

まあゆうかりん(と俺)に剣なんでもちろん効かな
いんだけど、相手が「奥の手だ!」的な事を言いな
がら妖怪払いのお札とか出すと

やっぱり少し空気が変わるね お札くらいなら山の
神社でも手に入るんだけどさ、ゆうかりんは妖怪な
のでお札には弱いのです

こう身体に吸い付くみたいにピタッと来てね、ゆう
かりんの身動きを奪つちやう でもゆうかりんは一
ミリも焦らないよ

だって俺は人間じゃんゆうかりんについたお札剥が
せるよね、俺にとつてはただの紙でしかないし、ペ
リペリ剥がしてポケットに突っ込んで

あとは諦め顔のお相手様に日傘を向けて本気の2割
の力くらいのスパークで退場頂くわけよ、少し残酷
かな、あんまり痛そうにはあまり見えないけどね

適当に吹っ飛ばした後は適当に一息、俺の方に向き
直つて笑つてさ、「暇潰しには少し物足りないわね」
なんて言つて、今度は俺で暇潰しをするつもりなの

か適当に日傘向けたりしてね、ちよつとそれ怖い
よ! お遊びが過ぎるよ!

ね! ゆうかりん!
うふふふふ

ゆうかりんに手紙を書きたい
ゆうかりんにラブレターを書きたい

文字でゆうかりんに俺の想いを伝えたい

いつも近くに居ても、心と心は常に繋がっているとしても、文字じゃないと伝えられない何かっていうのはきつとあると思うんだよ

きつと何かを使うだろう、と思っずつととつておいたゆうかりんの好きそうなパステルカラーの花柄の便箋、今こそその存在価値が試される時さ、というわけで俺は俺が一番好きなあの子に手紙を書きますよ、俺はやると言ったらやる男だからね

フンスツつと鼻息を鳴らせて意気込んだあたりで「何書いてるの」つてひよこんと背後から出てくるんだ、手紙を書こうと思ってる対象がね

思春期の子供みたくにはっ！ つて隠してゆうかりんに「なんでもないアルよ」みたくに言っつて誤魔化すの、でも隠されると逆に気になるものなのか、

ゆうかりんはニヨニヨしながら「隠し事なんてあなたらしくないわよ」なんて言いながら俺のそばを離

れてくれないんだよね、ぐいぐいって背中を押してあげて向こうにおいやつて、大事な書類だから遊んで待っててね！ つて言っつてようやくわかってくれたみたい、ソファにぼふんと座つて大きい鹿たかトナカイだかよくわからないキャラクターのぬいぐるみを抱きしめて、俺を背中から見続けるゆうかりんさてそろそろ執筆に移ろうかな、便箋の上下を間違えないようにテーブルに置いた後万年筆を取り出して、うーんそうだな、なんて独り言をいいながらまずゆうかりんの名前を書くよ、上部左側に「親愛なる風見幽香様へ」つて書いて少しにやけてしまったんだかこれだけで満足しちゃいそうな気がするね次に忘れないように俺の名前も書いておくことにするよ、一番下の行に俺の名前、ゆうかりんと一緒に姓の後に、俺の下の名前を書く、当然と言っちゃ当然なんだけど、これまたなんだか妙に嬉しくてね今でも胸の奥がじんわりするんだよ、さて肝心の内容だけど何を書こう全く考えてない

ゆうかりんに一番伝えたい事は何かつて考えたらまずペンが動いてさ、一行目から「愛してます」なん

て書いちゃったんだ

書いたのはいいけど一言目から「愛してます」じゃ後の文章にまったく広がりを持たないよ この選択は大きなミステイクだろうね でも間違いだとわかっていても愛を取るような展開するのは必ず来ると思うんだ、それが手紙でも何でもね

さてこの次はどう書いたものかな、腕組みして考えてもやっぱり続きが出てこない だってもう伝えた事は書いてしまったからね 一番言いたい事はこの短い言葉で伝わってしまうんだと思うよ

ここでさ、ふと瞬きをしたら、いきなり俺の目の前から便箋が姿を消しちゃったんだ はっと思つて顔を上げたらテーブルの向こうから

ゆうかりんが便箋をちよんと摘まんで内容を見てるんだよ あれだけ見ちゃだめだって言つたのにね

ある意味ゆうかりんも困ると思うよ その紙にはゆうかりんの名前と俺の名前と「愛してます」の一言しか書いてないからね

ゆうかりんはさ、あまりにも短い内容を二度三度見返すようにした後、ゆっくり俺の顔を見たんだ 少

しだけハートがドキツとするよ

そしてから軽く笑つて、便箋をくしゃつと丸めて俺の方にポイと投げてしまふんだ 俺の頭にぶつかつて跳ねる紙の玉、そのあとコロコロ転がるよ

ゆうかりんは「いつも同じこと言つてるじゃない」なんて可笑しそうに言つてさ テーブルの向こうから椅子を引つ張つてきて、そして俺の横に置いて並ぶんだ 目と目を合わせたらニツと笑うゆうかりんの顔が飛び込んできてさ、俺の左手をぎゅつと握つて「さっきの手紙のご用事、何かあるんじゃないの」なんて言うんだ 俺は少し恥ずかしくなつて「何もないよ」つて返すんだけどさ

ゆうかりんは目を閉じて俺の肩に頭を乗せて「そっ」なんて言うの、嬉しそうにね

ゆうかりんに手紙を書くつもりだったけど、書かなくても俺の心は十分に満足だったよ 今度はゆうかりんから俺にお手紙とかなないかな！ ないかな？

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふふ

ゆうかりんを騙したい

ゆうかりんに嘘を吐きたい

単純な嘘でも本気で演技すればゆうかりんを騙せる

だろうか？ 我ながら子供みたいな好奇心だよ

ゆうかりんに向かってピュッと吹きかかないジャガ

ーさんみたいにだばだばと走りながら「てーへん

だ！ てーへんだ！」って言って急接近

なんだか触りたくない海洋生物を見るような目で俺

を見てくるゆうかりんの手をぐっと力強く握ってね

「大変だよ、今日の午後四時に幻想郷が滅亡するん

だって！」って二秒で考え付いたセリフを言ってみ

る。出所は文々。新聞ということにしておこう

俺は久々によし言い切った！ って感じで無駄な達

成感に包まれるんだけどね。対するゆうかりんはと

言うとして、全く顔を変えないで

あるうことか俺の目を見つめたままため息を吐いち

やった。これ非常に精神攻撃としては有効だね、も

う負けたような気分になったよ

ダメ押しで最後にやり残した事はないか、って聞いて

てみるんだけど、言葉の途中でゆうかりんに遮られてしまっさ、

眉をひそめて「何？ 罰ゲーム？」なんて言われて

しまった。どどどどういう意味なんですか

ゆうかりん最初から「mm」も信じてないみたい。ま

ーた俺が何か自分だけ面白い事やってる、みたいな

認識だったように

はつけよいの言葉がなかなか出ないどころかまず土

俵が無いというこの状況。俺も早々に折れて一通り

説明してみました

そしたらゆうかりん言うんだ。嘘の質が悪すぎるっ

て。やはり二秒で考えた嘘には限界があつたか今度

は五秒くらいかけることにしよう

そして「どうせやる事は決まってるんだから聞くま

でもないでしょ？」なんて言ってる俺の鼻の頭を人差

し指でちょんつてやるんだ

どういうことか理解できずにぼかんとしてる俺に向

かってね。「いつ終わりが来ても私はあなたと一緒に

だからね」って言うのよ

結構サラリと言ったけど実はこの台詞ゆうかりんに

は少し恥ずかしかったみたいでさ、顔を紅色にぼつと染めて

「……何か言いなさいよ」なんて言うんだ。俺の吐いた簡単な嘘はゆうかりんを恥ずかしがらせる事に成功したみたいだね

手は握ったままだからそのままぐいつて引つ張つて俺の方に抱き寄せてね。胸の中にゆうかりんを収めてやるんだ。

そして軽くゆうかりんの髪なんか撫ぜながらね、「ごめん聞こえなかった、もう一回言つて」とか言つていらやしい顔をしてみるんだ。

ゆうかりんは「知らないっ」なんて言つてぷいっつてするんだけどそんなゆうかりんも纏めて抱きしめてやつて俺のニヤニヤはまだ続くよ。

そのまま子供を膝の上であやすようにしながらもお互い仲良しさんのスキンシップを楽しむよ。ゆうかりんからはいい香りがするんだ。

少しお互い落ち着いてね。「幻想郷滅亡なんてずいぶんと思ひ切った嘘選んだじゃない？」なんてゆうかりんが言つて

いやまあ特に考えも何も無かったんだけどね、なんて返したり。お互いに顔を見合わせて笑いあつたりしてね。

少し下がって俺の胸に後頭部を押し当てるようにしてさ。俺の顔を見上げるような体勢になつたゆうかりんが

「幻想郷、滅ぼしてみてもいいかもね」なんて恐ろしい事をさらつと言うんだ。流石のゆうかりんでも現実味もへつたくれも無い話だよ。

そんな事をしたなら怒られるのは勿論の事、色々とり返しのつかない事になるのは目に見えているだけどゆうかりんと一緒だったら出来そうな気がするのが不思議だよ。誰にも止められない勢いがあるというかなんというか。

同意しておいたらしておいたでくすくすつて笑つて何も返さないし。たとえこの世界が滅んだとしても俺とゆうかりんだけ居ればいいよ！

ね！ ゆうかりん！

うふふふふ

ゆうかりんを数えたい
ゆうかりんの数を数えたい

眠れる恐怖ならぬ眠れぬ恐怖が俺を襲うよ 遅い時
間にコーヒー飲んだのがいけなかったのかな

ずっとベッドの上で目をぱちくりクリクリしている
だけなの まったく寝付けない 今まさに現在進行

形で入眠できずにもがき苦しんでいます
ゆうかりんはと言うと既に夢の世界へ旅立っている

よ ホント子供みたいに優しい顔して俺の腕に収ま
って寝息を立てているんだよ

こりゃあ小動物だね 俺のパジャマを離さない様に
きゅっと掴んでぴったり寄り添って寝ているの

どんな夢を見ているのかは知らないけど時々満足そ
うにニへニへ笑ったりして俺にほっぺを擦り付けて

きたりして見てるこつちまでニヤけてしまいうるな
んだけども、まあそれは置いて、本当に眠れな

くて困ってるんだよね
ゆうかりんの寝顔は本当の意味で見て飽きないけ

どもそろそろ寝ないと翌日への影響が不安になって

くる時刻だろうと思うの

草木も眠るなんとかかんとか、つて言うくらいだが
ら植物の頂点みたいなゆうかりんが寝るのはごもつ
ともだね

とりあえず俺もさつきから目を閉じて頑張つて寝よ
うとするんだけどとにかく寝付けない カフェイン
表出るこのやろう

脳裏にゆうかりんの笑顔と壮大な物語が浮かんで
ては消えていくの連続で色々精神的にまいってし
まいます

ここらへんで俺の脳内に閃きが輝くよ そうだ羊の
数を数えよう、つてね いい閃きというか何故もつ
と早くそこにたどり着かなかつたのかとも思う

でも羊は嫌です小さい頃に毛狩りされたばかりの
羊を間近で見て「ああこりゃ生理的にダメだわ」つ
てなつてから羊はダメ

それなら数えるのが苦じゃないものを数えればいい
んだらう ここで登場するのはもちろんゆうかりん
です 苦どころか頑張つた自分への褒美だよ
とりあえず数え始めよう、カウントスタートさ ゆ

うかりんが一匹……あー違うゆうかりんは匹じゃないねごめんね駄目な俺を許して頂戴ね

ゆうかりんが一人……ゆうかりんが二人……

ゆうかりんが気まぐれで分身して二人になる事はたびたびあるけどもそれ以上は見た事が無い、というか物理的に無理なのかもしれないね と思いつつ三人、四人と頭の中のゆうかりんが増えていきます

少し数えただけで頭の中にゆうかりんがいっぱいになるんだよ 両手両足を持ってしても数え切れないくらいのゆうかりんが俺の脳内でひしめき合う

なんだこれ、天国でしょうか 覚悟こそが幸福だから、そういう系の天国でしょうかこれ

いやあこれは素晴らしいね 何人ものゆうかりんがみんな俺の名前を呼んで微笑みかけるんだ 俺はその真ん中でゆうかりんを全身で満喫するんだよ ほんと幸せさ

でね、次の瞬間には大勢のゆうかりんによる俺の争奪戦が始まっちゃったの 全員が自己主張し合ってたよゆうかりん俺は一人だよ16分割できないよウ

フフフ

って言ってたらいつの間にか現実世界のゆうかりんが起きててね、心配そうな顔で「どうしたの？ 悪い夢でも見たの？」って言うてるの

ここにきてなんだか物凄く申し訳の無さが俺を襲うんだけどどういふことなんですか 脳内のゆうかりんは風に流されて一瞬で消えて、現実のゆうかりんと目がばっちり合うんだよね 起こしちゃってごめんね

まあ隠す必要も無いので眠れなくて困ってるーって事伝えてみるとね、ゆうかりんが子守唄謳ってくれてるってさ！ やったね！

ぼん、ぼんって俺のお腹を優しく叩きながら懐かしいお母さんの歌だよ これ寝ない奴は生物学上生き物とは認められないわ

おかげでぐっすりゴールデンスランバー これでも日も元気で起きれるよ！ ありがとう！

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふ

ゆうかりんにかけられたい

ゆうかりんにおふちゆんをかけられたい

幻想郷幼稚園に通うゆうかりん（4歳）のお気に入りの毛布 向日葵のプリントの模様がたくさん入っててふかふかなの

ちっちゃいゆうかりんの身長よりはちよつと長いくらいのも毛布 ゆうかりんはいつもそれを大事そうにぎゅつと握っていて、

どこへ行くのにも持って行くの たとえば迷子になった時だとか、転んで膝をすりむいた時とか、表社では生きられないようなそんな特殊な性癖を持ったオジサンに薄暗い所に連れていかれたりとかしても、この毛布に包まれば安心できるんだよ

お日さまに抱っこされてるようなそんな気持ちがあるんだってさ 包まってるようなちうとうとしちゃうんだ ゆうかりんかわいいね

俺は親切心でゆうかりんの毛布を洗ってあげようとするんだけど、ゆうかりんは敵意を剥き出しにしてキーカー言うんだ

「だめ」って言って毛布を俺から遠ざけようとするんだよ 見せつけるようにほつぺをすりすりさせたりに、頭にぼふつと被ってみたりしてさ

でもゆうかりんそれ汚いよ、いつも持つてるから綺麗そうに見えて実は相当汚れているはずなんだ、きつとばい菌だらけだよ、そもそもゆうかりんそれ持ち運ぶ時内でも外でもずる引きずってるから洗わないといけないよ、って言うんだけどゆうかりんは「ばつちくないもん」の一点張り

俺は洗う事によるメリットを子供になんとかわかりやすく説明しようとしてあれこれ言うんだけど、口をへの字に曲げたゆうかりんはなかなか頑固でなかなか意見を飲みこんでくれないんだ、でも最終的には「すぐ返してね」って言って渡してくれる、柔軟剤配合洗剤を使って洗えば

もつとふわふわでいい香りになるって言ったのが効いたんだと思うよ、ゆうかりんに大事に洗うと約束して、指切りげんまんをして、嘘を吐いたら針千本ノックという約束までしてね、

そんでもって普通に洗濯機に放り込むよ、洗ってる

最中も気が気じやないのか、ずつとそわそわしてる
ゆうかりん どうにも落ち着かないみたいで

カーテンをぎゅつとしてみたり包まってみたりする
の そんなゆうかりんを見て俺がホマホマした気分
になつてると どうやら恥ぢずかしいらしく

尻尾を逆立てた猫みたいにくつちを威嚇してきたり
するんだ 洗濯機は少しの間ゴウンゴウンと音を鳴
らして、ゆうかりんの毛布を脱水乾燥までしてあげ
るんだ 仕上がりは上々でゆうかりんも大満足の様
子 目を輝かせてぎゅーって抱きしめたりしてる
最近の柔軟剤ってのはなかなかやるね

これで汚くないよ、よかつたねって言うとううかり
んが満面の笑みでこつちを見て「ありがと！」なん
て言うんだ やめるよ照れるべウフフフ

ゆうかりんが「お礼にいれてあげる」って言うてく
れるの 毛布にっ事だろうね 全く他人に触らせ
ずらしなかつたのにこの待遇とはどうやら随分と気
に入ってくれたようだね お願いしますと俺が言う
とゆうかりんは俺にあぐらをかかせるんだ 組んだ
俺の足の上にゆうかりんが深く座り込んでね そし

てその上から毛布を掛ける 「こうやると一緒に入
れるよ」なんて言いながら軽く足をばたばたするん
だ

なんとも微笑ましいゆうかりんを近くで感じていた
んだけれども、しばらく経つと、疲れていたのか安
心したのか、ゆうかりん、眠くなっちゃったみたい
で俺の片膝の方に体重をかけてすやすやと眠ってし
まうんだ 子供ならではの自由奔放さに心を癒され
るよ

毛布の上からゆうかりんのお腹のあたりをなでなで
してやると、無意識のうちにならうか、身体をもじ
もじつてさせて答えてくれるんだ

ちつちやい子って体温高いよね、ゆうかりんの温か
さが俺に染み込んできてなんだか俺まで眠くなつて
きたような気がするよ

ゆうかりんを起こさないように俺も一緒に眠りにつ
く事にした 夜眠れないかもね、じゃあ今日は夜更
かしだね！

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふふふ

ゆうかりんを虐待したい

ゆうかりんを虐待しまくりたい

満足するまで徹底的にゆうかりんを虐待したい

虐待するよ！ って高らかに宣言するんだけど、当

のゆうかりんは何も臆する様子も無く

「今度は何して欲しいのかしら？」なんて言うんだ

よ 平和ボケした身の程知らずな妖怪め、何かする
のは俺だというのにな

とりあえず加虐対象を抱き寄せてみる ニヨニヨし

た表情のまま俺の腕の中に収まるゆうかりん

ふふふ今から何をしてやろうかななんて考えてる

と自然と俺の口の端から汚らしい笑みがこぼれ落ち
てしまふんだよ

気を抜くとクククっていういかにも悪い子みたいな

笑い声が出てね ゆうかりんが聞いて「ちよつと、

怖いじゃない」なんて言うんだ

でも顔は全く怖がってないんだ ゆうかりんってば

ホント怖いもの知らずなんだから、だけど今回はそ
れが命取りだよ

怖いもの知らずって言ったけど、ゆうかりんは本当
の意味で「怖いもの知らず」なんだよね実際ね

ゆうかりんの生命を脅かす要素が幻想郷に圧倒的に
少ない、これもゆうかりんの実力があってこそだね

冗談交じりで「あなたに嫌われる事意外に怖いもの
なんてあると思う？」って言う時のゆうかりんの誇

らしそうな表情と言ったらもうね、なかなか可愛

くて、冗談でも一回嫌ってみたくなっちゃうんだよ
ね ゆうかりんはホント罪な女だよ

さてそんなゆうかりんへの虐待を開始することにし

よう 俺に背中を預けるようにして座ってきたゆう

かりんに「バンザイして」って言うよ

少し不思議そうな顔をした後に素直に両手をあげる
んだ 「こう？」って言うってね 俺はその一瞬の隙

を見逃さないで、

すかさずフリーになつた腋に手を伸ばし、そして一

心不乱に両手を動かしてゆうかりんの腋をくすぐる、

好きだけくすぐる

ゆうかりんはびっくりして両腕を下げようとするん
だけどもやめてあげないで、本気と書いてマジでく

すぐるよ 食虫植物みたいに足をがっちり絡ませて逃げられないようにしてから

腋を擦り溶かすように必死に手をもしやもしやとしてやってゆかりんを笑わせてあげるんだよ 苦しそうに笑いながら「やめてー」って言ってもこれは虐待なのでやめてあげません 心を鬼にして手の動きに集中して肺から「お残らず空気を奪うくらいに笑わせてやるんだ

最終的にゆかりんが笑いながら振り回した手が俺の顔を捉えて、俺が寝室の方までズギンって吹き飛んでいった終了の合図だよ

終わった後もゆかりんはしばらく涙目で笑っててね、育ちの悪い阿呆の子みたいに「卑怯よ」ってずつと言ってた

一応この虐待は成功みたいだね 虐待に成功も糞もあるのかって言われると微妙だけどね

一方の俺は吹っ飛ばされた衝撃で腰を強く打って悶えまくってるんでおあいこだよ

さて虐待には成果というものがあってね、結果として俺に従順になったり反抗心を失わせたりできるか

なーと思っただよ、ゆかりんに「どう？」って聞いてみたんだけどさ、なんだかゆうかりん、妙に迫力出しながらバツクにゴゴゴゴゴゴってジョジョの音を並べながらね、「喜びなさい、本物の虐待つてのを教えてあげるわ」なんて言ってるんだ

そう言いながら手わきわきして俺の方に寄ってくるの、俺が言っちゃうのも何だけども、くすぐるのは虐待でも何でも無……！

あとはしばらくの間ゆうかりんに強制的に爆笑の渦に陥れられてしまってたね、息止まる寸前までいかされてしまったよ

やっぱ腋つてのはピンカンだよな ヨダレだの鼻水だのダラッダラになりながら笑い転げる俺の顔を見てゆうかりんもこれまた満足そうに笑うんだよ

「あなた、笑えばなしで戻らないんだもの。壊れたかと思っただわ」なんて言ってたね！ もう！ 俺はおもちゃじゃないんだから！

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふふ

ゆうかりんに打ち明けたい

ゆうかりんにカミングアウトしたい

何の隔たりも無い仲だとは思ってるけど、本当に大事な事っていうのはなかなか言い出しづらいものなんだ、いつだってそうさ

逆に俺とゆうかりんが仲良し過ぎるからこそ言えない事っていうの中にはあるわけで 全て通し合えるってわけじゃないんだね

今日はゆうかりんに大事な話をしようとしていたんだけど、言い出すきっかけが中々つかめなくて、もごもごとかまごまごしてる間にすっかり夜になっちゃってね 夜はもちろん寝る時間だよ もうお風呂にも入ったしパジャマにも着替えたし、後は二人でベッドに横になって電気を消してくっ付き合っている夢の世界に落ちていくだけってとこまで引張ってしまった このままだと言い出せずに日付が変わってしまう

勇気と変な汗を振り絞ってゆうかりんに告げるよ 話があるって言ってゆうかりんをこっちに向かせる

んだ もう既に眠そうな目でこっちを見ながら

「なあに？ 怖くて眠れないの？」なんて言いながら軽く微笑むの 数百年間ずっと一緒に過ごしてきたゆうかりん 今日、君に伝えることがある

深呼吸をすると少しだけ心が落ち着くようだ、けどまたすぐに俺のハートがキングエンジンを始めてしまう 思い切って言葉を口に出すよ

ゆうかりん、実は俺、変態なんだ！ ってね よし言えた あまりに馬鹿けたワードが飛び出したからなのか、ゆうかりんは少し固まるの

目を丸くしたり白黒させたりしながらね そんなゆうかりんに、俺は勢いに任せてまだまだ告白タイム 変態とは言ったけど、そんじよそこの生半可な変態じゃないんだ、すごく変態なんだ、俺はド変態なんだよ、ってね 呆れたゆうかりんの口が塞がらなくなってしまうみたいだね、阿呆の子みたいに開きっぱなし 俺は一人で言い切った事に対する無駄な達成感を得て身体を震わせるんだ 少し長い間が開くんだよ お互いに無言の時間が流れるの 流石にいきなりの事だったのでゆうかりんへのシヨ

ツクも大きかったということなんだろうか やっぱ
り言うべきじゃなかったのだからうか

そう考えてたらゆうかりんがちっちゃい声で何かを
言うの おそろおそろと言った感じで、「本当に変態
なの？」ってね 確認に走ったね

ああ俺は変態だよ、大変に変態だよ ゆうかりんは
眉をひそめてこう言うの 「いつもセックスの事は
っかり考えてるって事？」とね

そうじゃないよ、それはただ単純に溜まってる人の
事だよ 俺はそういうのじゃないんだ、そういう若
者の自己主張みたいなモノじゃないんだ

ゆうかりんはバツが悪そうな顔になってね、「もしか
して、私の下着の二才いを嗅いだり身に着けたりと
かしてるの？」なんて言うてるの

そんな事はしたことがないよ、むしろその発想は無
かったよ、というかゆうかりん、よくそんな犯罪者
みたいな事思いつくねえなんて言うのと

妙に笑顔のまま額に青筋を浮かべて震わせた右の拳
を見せつけてきたので一瞬で平謝りモード突入だよ
いやでも本当にそんなことはしてないんだ ついで

に言うのと舐めたりとかぶっかけたりとかそういうの
じゃないんだ ただもつと単純なんだけど、変態な
んだと思うよ ここまで言ったんだけど

しびれを切らして爆発しそうなゆうかりんのために
ハッキリと言ってやることにする また勇気が必要
になった、手にグツと力を込めてこう言うよ

「俺、君が寝た後に君の寝顔をずっと見てるんだ。
月明かりに照らされてる君の寝顔を見ながら君の事
を考えるのが好きなんだ」ってさ

一瞬考え込んで、その後に顔を真っ赤にして手をブ
ンブンするゆうかりん いつもゆうかりんの方が先
に寝ちゃうので、抱き着いてる手を解いて

自分が満足するまでゆうかりんの寝顔を眺めてるん
だ、心休まる、そして心温まる時間なんだ 大声で
「何してるのバカじゃないの！」とか言ってる

俺をばかばか殴ってくるゆうかりん 拳句の果てに
「変態！ 超変態！」なんて言われちゃったよ だ
から言っただじゃないか！ 変態だつて！

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふふふふ

ゆうかりんを背負いたい

ゆうかりんをおんぶしたい

ぶつちやけ言うのと重いからおんぶしたくない ああ

違うよゆうかりんが重いって訳じゃなくて大抵みんな重いつて訳でさ痛い痛いごめんなさい

あやうくゆうかりんに残機を全部持つて行かれると

ころだったよ こういう時は気合避けじゃ駄目だね

こうチヨンチヨンつて避けて行かないとね

ご他人様に「割と暇人なの？」つて聞かれたら苦く

も肯定の意を表すしかない俺とゆうかりん でも散

歩をしているから暇じゃないと思っただよ

散歩をするために他の作業を途中で止めたりするし

ね 決して暇を持て余してゐるわけじゃないんだ、俺

もゆうかりんものんびり屋だから

暇そうに見えるだけだよ 人は見かけによらないつ

てヤツだね、妖怪さんもなかなか見かけによらない

よ、ゆうかりんは見かけ以上に可愛いからね

というわけで散歩をエンジヨイ中 飼犬みたいなの

ものだよね定期的に散歩しないとなんだか落ち着か

ないんだよ 散歩中毒者の二人さ

でね、途中でゆうかりんがいきなりじゃんけんを申

し出てくるのさ この先に道の分かれるところがあ

るはずで、行きたい方向があるのかと思つて

「ゆうかりんが行きたい方向でいいよ」つて言うん

だけど、どうやら俺の考えはハズレで、そういう事

じゃないらしい とりあえずじゃんけんだと

言つて聞かないわがままゆうかりん 目的も明かさ

ずに「この私がじゃんけんしようつて言つてるのよ」

なんて無茶苦茶なゴリ押しをしてくるんだ

仕方が無いから付き合つてあげること 念のため

一回勝負だという事を確認してあまり勢いを付けず

に軽く、悩まず決めた手を出してやる

結果は大勝利だよ ゆうかりんの二本の指より俺の

握り拳の方が強いよ 壮絶な勝利だよ、ゆうかりん

は情けなくも俺の前に跪く事になるだろうね

「負けちゃった」なんてつぶやくゆうかりん でも

顔はけろりとしていてね、「勝ったあなたには特別に

私をおぶす権利をあげるわ」とか言うんだ

えっ俺じゃんけんに勝つたのにおんぶする側なの？

本当にサラツと言われたから一瞬鵜呑みにしてしま
うところだったよ 負け犬のゆうかりんは

「いいから、おんぶ」なんて言いながら俺の後ろに
回って子供みたいにモゾモゾするんだ ゆうかりん
が腕をうんと伸ばして俺の肩を掴んでね

俺が太ももにしつかり手を掛けると、今度はゆうか
りんも俺に身体全体を押し付けて密着するんだ ゆ
うかりんは色々柔らかいね、ふよふよだよ

今日のゆうかりんは甘えん坊だなあなんて聞こえる
ように言ってやったりしてね それでも動じずに俺
の背中であんふんとご機嫌そうに

鼻歌を奏でたりするんだ どうしても聞いてみたい
から聞いてみたんだ、「もしじゃんけんに負けてたら
どうなったの？」ってね 素朴な疑問だよ

ゆうかりんは後ろから俺の髪をくいくいつて引つ張
りながら「罰として私をおんぶするに決まってるじ
やない」って言うんだ わかりやすい罰だよ

つまりこれは仕組まれた勝負だったんだね、アンフ
エアだよするいよって言うんだけどおんぶしてる側
からは顔が見えないのをいい事に

ゆうかりんはだんまりを決め込むんだ 酷い女の子
さ、どうやら俺の手をわずらわせて額に汗をかかせ
るのがお好みらしい 大した趣味なこと

まあでも正直悪い気はしないんだけどね そのまん
まの意味でゆうかりんを支えてる 二人分の身体を
俺の脚で支えて前に進んで行くんだ

非常に意味のある事だと思うよ 願わくばずっとこ
んな形でもいいなあと思うのさ ただ最近の運動不
足がたたってすぐに汗だくになってしまつてね

背中の中でゆうかりんが怒るんだ 馬を扱うみたい
に「ほらもつと歩け」なんて言つてね 勘弁して
よ、こういう時に人間補正をヨロシクしたいね

でさ、おんぶ散歩の途中に知人の野良魔法使いさん
に会つただけだよ 人に見られるのは恥ずかしい
のか、背中からゆうかりんが降りようとするの

でもこういう時だけ脚をガツチリ掴んでやつて降ろ
してあげないんだよ ちよつとしたイジワルさ、焦
る君を見て楽しみたいんだ！ おんぶ側の特権さ！

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふふ

ゆうかりんに塗らりたい

ゆうかりんにお薬を塗らりたい

ただ肌が荒れただけなのに末期ガンもびつくりなく

らいに心配されてお薬を直接ぬりぬりされたい

その上適量なんて蚊帳の外みたいなベットベットな不

思議な物体スライムのな量を散布されて微妙な気分

に陥りたい

肌が弱い人つてさ、たとえば真新しいシートだとか

普段飲まない井戸水とか肌に触れるだけで荒れたり

するじゃない？ 少なくとも俺はそうさ

今日は新しく買ったパンツが残念なくらい肌に合わ

なくて、太ももの外側が真っ赤になっちゃってさ、

ゆうかりんに心配されちゃうわけなの

俺は「いつもの事だから気にしないで」って言うん

だけどゆうかりんは俺の言葉を耳に入れないでじつ

と患部をさすって

「すぐく痛そう」なんてぼつりと言って俺の目を見

るの、どっちかっていうとカサカサで痒いんだけど

ねうふふそんなに触らないで

ゆうかりんにお肌を撫ぜられると別の意味でむず痒くなつちゃうんだよ、ゆうかりんのすべすべのおてのせいでね、これは犯罪的さ

竹林のお薬屋さんにはもう診てもらってね、「貴方達の事だからほつといても治るでしょ」とか言われつつ塗り薬を貰ったんだけどさ、貰った薬の瓶は空になって足元に転がっていて、今その中身は何故か全量がゆうかりんの手のひらの上に乗ってるわけなの、どう見てもその量おかしいよねゆうかりん、つーんとする薬の臭いなんか気にしないようにしながらゆうかりんは「塗るから服脱ぎなさい」って言うのよ

その量は一週間朝昼寝る前に患部に塗る分量で貰ったはずだとか、別に服脱がなくても自分で手が届くから塗れるだとか

色々言い訳するんだけどゆうかりんは聞いてくれないくてね、キツときつい顔になって「私の手を煩わせるのが好みなの？」なんて言うの

こういう時だけ怖い顔になるんだからもう、ずるいゆうかりんだよね、しつぶす従う意思を表明すると

またやわらかい笑顔に戻るの 幻想郷最強の飴と鞭だね、俺は基本的にこれに弱いよ

っていうかゆうかりん、俺本当に脱ぐの？ どうか全部脱ぐの？ ねえ俺何かそんなに悪い事しましたか？ 少し肌寒いよ

そして薬を塗るだけのはずのゆうかりんが妙に楽しそうなのはなんでだろう 薬を手のひらに乗せたままいい笑顔で迫ってくる

俺に拒否権はラルクのポーカルの伸長と同じくらい無いに等しいものでして、ゆうかりんに好きな体制にさせられちゃって悔しいでも感じちゃう

「優しく扱ってあげないとすぐ壊れちゃうものね。人間って本当に優しいもの」なんて適当な事言いながらわざと俺に息がかかる距離まで近づいて

それで薬をぬーりぬーり いつも俺がゆうかりんの頭を撫ぜるみたいに優しく円を描くようにやるんだよ優しい手つきだね

ちよつと冷たい八意印のお薬と反対にちよつとあつたかいゆうかりんの手が俺を撫ぜるとそれはそれは肌にするつと染み込むようで気持ちいいの

「とつとと治さないと怒るからね」なんて言われて最後にはん、って軽くはたかれるんだ ゆうかりんに言われちゃしようがないね

俺は少し調子に乗って「ゆうかりんがキスしてくれたらもつと早く治るよ」って言うんだけどね、顔をガツと掴まれて唇をタコみたいにくっついて突き出すようなおかしい顔にされてね につこり微笑まされて「馬鹿な事言わないの」なんて言われてしまうの

でもその後にもう片方の手を俺の目に覆うように被せて それで俺が暗闇に取り残されてる間に唇に軽い感触を残すなんて素直になれないゆうかりんの愛らしいこと愛らしいこと 覆った手を離されると目をそっぽむけて少し顔を赤らめたゆうかりんがいるんだ

ゆうかりんが居れば何でも治るよだから全然心配は要らないよ！ 少しの間だけ待っててね！

ね！ ゆうかりん！
うふふふふふ